

ラジオで発信 —若者と高齢者の音楽イベント制作

1 目的・概要

私たちは、高齢者福祉施設で音楽イベントを開催し、高齢者に音楽を楽しんでもらうことを通じて、心身の健康の維持・向上をはかることを目的に活動しました。音楽療法的アプローチから健康や認知症の回復について検討し、医学では得られないような効果を得ることを目標にしてきました。また、私たちの活動内容について、音楽を交えながらラジオを通じて発信しました。ラジオを聞いてくださっているご高齢の方々に音楽を楽しんでもらうだけでなく、私たちが学んだことを多くの方々に伝えていくことも目的としています。



本プロジェクトでは、履修生が春と秋で計5回にわたり高齢者福祉施設を訪問し、音楽イベントを企画・実施しました。その際、楽しいコンサート作りはもちろんのこと、高齢者の反応を観察し、音楽が生理的・社会的・心理的にどのような影響を与えるか分析を行いました。医学の力だけではできない音楽分野からの健康の維持・向上について考察しました。そして、音楽活動の方法やコンサートのようすをラジオから広く発信し、「高齢者に寄り添う」楽しいラジオ番組制作が実現しています。

Annual Schedule

2016年	4月	7日	開講（認知症の現状と高齢者福祉施設について学ぶ）
	4月	28日	ゲストスピーカー 武部宏さん（フリーアナウンサー）
	5月	8日	KBS 京都ラジオ『武部宏の日曜とーく』生出演
	5月	12日	多機能型居宅介護施設訪問（音楽イベント実施） 講師 広田佳与子さん（認知症ケア専門家）
	6月	23日	特別養護老人ホーム訪問（音楽イベント実施）
	7月	24日	春学期成果報告会
	9月	27日	イベントの反省・今後の課題・計画についての討議
	10月	20日	京都三条ラジオカフェ『みんなでわっはっは』生放送
	10月	23日	KBS 京都ラジオ『武部宏の日曜とーく』生出演
	10月	27日	特別養護老人ホーム訪問（音楽イベント実施）
	11月	17日	京都三条ラジオカフェ『みんなでわっはっは』生放送
	12月	1日	特別養護老人ホーム訪問（音楽イベント実施）
	12月	8日	多機能型居宅介護施設訪問（音楽イベント実施）
	12月	15日	京都三条ラジオカフェ『みんなでわっはっは』生放送
2017年	1月	22日	秋学期成果報告会



2 成果達成度

私たちは、若い世代と高齢者が一体となって楽しめる音楽イベントを開催してきました。春学期には、まず、認知症ケア専門士の広田佳与子さんと高齢者福祉施設に伺いました。そこでは、広田さんがどのように音楽療法的な認知症の予防を行うのか体感しながら学びました。高齢者の中には、歌って涙を流している方や、普段は寝たきりなのに一生懸命手を動かしてくださる方もいて音楽の力を実感できました。同時に、「表情」など10項目の反応調査を行いました。その考察から、高齢者が自発的に会話する工夫ができていないといった課題が見えました。

秋学期には、引き続いて一から制作した音楽イベントを行いました。プログラムの中には、高齢者の馴染みの曲からJ-popやロックまで多様な音楽のジャンルを織り交ぜました。また、「学生が一方的に歌う」といった受動的プログラム、「一緒に歌う」「体を動かす」といった能動的プログラムに分けて、高齢者の反応の違いを調査しました。どのようなアプローチで音楽を体感してもらうのが効果的か検証するためです。イベントでは、学生の手話を真似しながら一緒に歌ってもらったり、手作り楽器をお渡しして一緒に演奏してもらったりするなど、高齢者の方々が積極的に参加できる仕掛けをつくりました。そうしてイベントを実施すると同時に、反応の調査データの蓄積と分析を行っていきました。分析の結果、(1)ロックや讃美歌よりも童謡といった馴染みのある曲の反応率が高い、(2)参加意欲がある・コミュニケーションができる・笑うという3つの評価項目の反応率が高いことがわかりました。特に(2)のコミュニケーション能力の改善については、春学期にはない成果でした。これらの成果より、音楽には高齢者の健康の維持向上に一定の効果があることが証明できたとと言えます。

音楽イベントの回数を重ねることにより、高齢者の方々の笑顔が一段と増えただけではありません。春学期にはベッドで寝たきりだった男性が音楽に反応して起き上がってイベントに参加してくださったり、プログラムが終わった後もアンコールが起こったりと目に見える形で高齢者の反応の変化が見られたことはとても嬉しい成果でした。

さらに、私たちは音楽イベントのようすについてラジオを通じて発信してきました。春学期には、KBS 京都ラジオの『武部宏の日曜とーく』に2回生出演し、プロジェクトの概要や進み具合について話しました。そこでは、ラジオの構成やわかりやすい話し方について学びました。秋学期には、京都三条ラジオカフェで9分間の自分たちの番組を生放送しました。私たちが行っている音楽療法のメソッド



をラジオというメディアを通して様々な世代のリスナーの方々に広く知ってもらおうと考えました。さらに、訪問施設でのイベント内容を発信することで、それ以外の施設や病院、自宅で暮らす高齢者の方々にも音楽療法を体験できるようにし、心身ともに健康促進をしていただくことを目標としました。番組は『みんなでわっはっは！音楽で心と体をリフレッシュ!!』と題し、音楽を交えながら楽しく音楽療法的な高齢者へのアプローチを伝えました。その際、KBS 京都ラジオでの経験から、わかりやすく伝わる話し方や構成を心がけました。ラジオ番組では、視覚障がいのある方がラジオを聞いて喜んでくださったという声も聞かれました。私たちの活動をラジオで知ってくださる方がいたため、放送を行う意味がありました。



3 プロジェクトを通じて

この1年間の活動の中で、高齢者の方々との交流やラジオへの出演といった、座学では学べない貴重な経験ができました。しかし、プロジェクト運営が最初からすべてうまく進んだわけではありませんでした。



まず、イベントを皆で協力して作る過程で、高齢者に積極的に参加していただけるイベントにするにはどうしたら良いかわからず、企画の段階から前へ進みませんでした。しかし、ゲストスピーカーの方々

の意見も参考にしながら、皆で高齢者の方々に喜んでいただける工夫を考え出した結果、オリジナルのイベントを制作して成功させることができました。イベントでは、施設の高齢者の方々とふれあいを大切にしよう意識し、自分たちから積極的に高齢者の方々に声をかけてコミュニケーションするよう心がけました。高齢者の方々も、私たちと一緒にイベントを楽しんでくださり、逆に高齢者の方々に昔流行した曲を教えてもらったりすることもありました。イベントを通じて高齢者の方々に笑顔が増えていくようすを見て、私たちも楽しんでイベントを行うことができ、大きな達成感を味わいました。こうした音楽イベントを通じて学んだことは、高齢者の方々が違う世代の人々とのふれあいを強く求めているということです。これからの高齢化社会において、若者と高齢者の交流の場を増やしていくことはとても重要です。高齢者にとってどのような音楽が、またどのように音楽と関わるのが有効的なのか調査を行ってきましたが、何よりも私たち学生つまり若者と音楽と通じて近くでふれあうことが最善だと感じました。

プロジェクト科目全体を通じて、自主的に動かなければ何も始まらないため、主体的に行動することの大切さを学びました。また、今年は5人という少人数でプロジェクトを運営してきました。その中で、物事を進めていくには一人ひとりが自分の役割を果たし、人任せにするのではなく、皆で協力することが必要だとわかりました。



編集後記

普段の大学生活では高齢者の方々とふれあう機会がほとんどないため、1年間高齢者の健康について考え、実際に交流する機会を持てたことは非常に貴重な経験になりました。

また、ラジオから自分たちの活動や効果的な音楽療法的アプローチを発信する際には、スタジオでの生放送という普段味わうことのできない緊張感の中、自分の言葉でわかりやすく伝える難しさを実感しました。

1年間を通じ、高齢者の健康について音楽の側面から考えることで、高齢者を身近に感じられました。そこから得た学びを今後の学生生活に生かし、さらに高齢化社会に向き合うことの重要性を発信していきたいです。

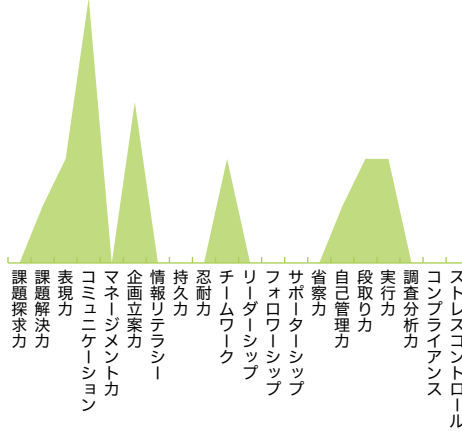
プロジェクトメンバー

谷澤 伽奈(文2) 福吉 貴文(社会4) 宮堂 友佑(経済2) 岡田 有加(商2) 今村 茉里奈(政策2)
飯田 眞生(SA)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

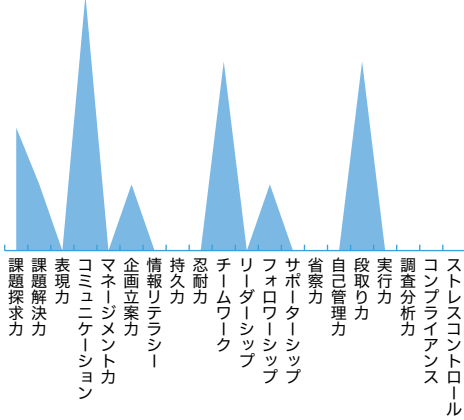
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

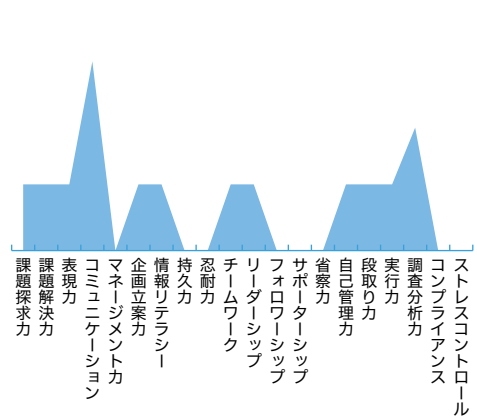


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

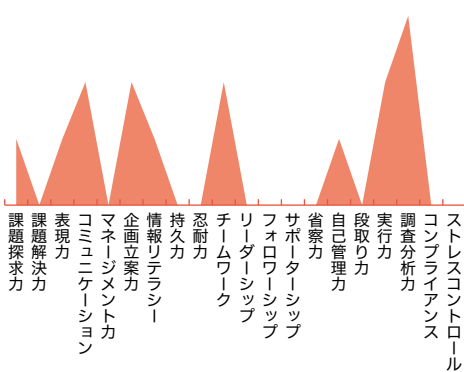


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

